

TOYOTA GAZOO Racing 86/BRZ Race 2019

Rd,2 Fuji OTGmotorsports REPORT

OTG Motorsports 86/BRZ Race in 富士

4/20～21日で86/BRZ Race第2戦が富士スピードウェイで開催された。
今シーズンから大きく変わったレースフォーマットである2ヒート制で行われる初めての大会になる。

予選からヒート1、ヒート2と3回走るのだが、使えるタイヤは1セット。
速さだけでなく、タイヤも持たせながら走り切らないと行けない為、マシンとタイヤ、セッティングそして経験と実力と今まで以上に総合力が試されるレースとなった。

熾烈なタイヤ競争が行われている86レースの中で、Dunlopタイヤを履くOTGモータースポーツは、事前の予想では、厳しい戦いが予想されていた。
その代わりに、初戦の鈴鹿戦でロングランの優位性を見出したグッドイヤー勢が本命に躍り出ている。

迎えた予選では、OTGモータースポーツは、予選でグッドイヤー勢の前に出たいところであったが、まさかのグッドイヤー勢にフロントローを独占されてしまう。
60号車 服部が3番手、10号車 菅波が5番手からの戦いになった。

迎えたヒート1は、服部、菅波を含む5台がトップ集団となり後続を引き離し、随所でバトルをしながら60号車服部2位、10号車菅波が4位でレースを終えた。
レース1を制したのは、グッドイヤータイヤを履く阪口選手であった。

迎えたレース2、阪口選手のスタートが鈍ったところを60号車服部選手が1コーナーでかわしトップでコカコーラコーナーに進入していく、服部選手に続くように堤選手と菅波選手もポジションを上げていく。
そのまま、服部、堤、菅波の順でレースは進み、ペースで勝る堤選手は服部選手を交わしたが、ベテラン服部がうまく抑えて中々仕掛けられない、後ろを走る菅波選手は、服部選手の力を借りて、堤選手を交わすポイントを組み立てながら、残り2周目のダウンロップコーナーの進入で仕掛ける。
そこからレクサスコーナー・プリウスコーナーとサイドバイサイドで抜けて行く。

お互いのラインを尊重したクリーンなバトルは、ホームストレートまで続き、TGRコーナーで菅波選手が堤選手を交わし、そのままOTGワンツーフィニッシュを達成した。

正式結果では、60号車服部 1位、10号車菅波 2位となり、2年ぶりのOTGワンツーフィニッシュを達成し、シーズンチャンピオンに弾みがついた大会となった。

クラブマンクラスに参戦中の777号車山崎選手は777号車山崎選手は予選21番手から1ヒート目を15位、2ヒート目でさらに順位を上げて総合順位は10位となった。